

## 大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京外国語大学、国際基督教大学
整理番号	AA03
事 業 名	「多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えた COIL 型日米教育実践」

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	
<p>                     本プログラムは、COIL 型教育を留学による学生交流やインターンシップと組み合わせることにより、教育の質保証と効率性のバランスを取りながら実施するとともに、新たな TP-COIL 人材育成モデルを導入し、多角的な COIL 型教育教授法を整備するなど、運営体制も十分に構築されている。また、本プログラムは、海外相手大学と教育内容の拡充・連携強化や拡大を図ると同時に、将来に向けた展開も積極的に行われるなど、東京外国語大学及び国際基督教大学の大学全体の国際化に貢献するとともに、COIL 型授業を日本国内の連携大学にも開放するなど、成果の普及にも努めている。参加学生や教職員にも分かりやすいスキームが示されており、事業計画に沿った事業が確実に進行している。また、東京外国語大学では、オンライン教育に関するマニュアル等の整備により、2020 年度からの全学早期オンライン授業化に貢献していることに加え、文化多様性や文化摩擦の課題に取り組んでいることも評価できる。さらに、双方向の単位認定や成績管理の仕組みも十分に構築され、明確にされている。また、学生の外国語力基準と学生交流数は中間評価時までの目標を達成し、順調に推移している。その他には、プログラムの評価も外部評価委員会等を設置し、客観的な評価も毎年度実施されている。                 </p> <p>                     一方で、本プログラムにおける COIL 型授業の受講者数は事業計画を上回る結果となっているものの、科目数は目標を達成していない。また、短期受入プログラムにおける単位付与制度の充実と、事業名に掲げられている「コンフリクト耐性」の育成法の開発、学生が自ら考え、討論を行う場や、行動と経験を通じて学ぶ場を提供することなどが期待される。                 </p> <p>                     最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。                 </p>	